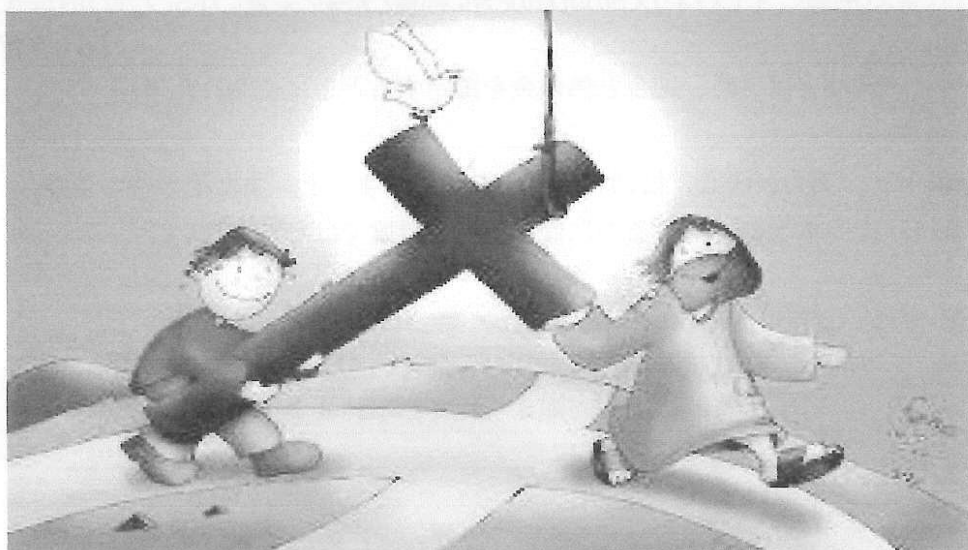


〈イエスさまを見上げる〉

I ペテロ 1 : 3 ~ 9



弟子のペテロが書いた手紙

あて先は・・・ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤ、ビテニヤに散って寄留している、選ばれた人々【1節】



ペンテコステ(5旬節)に聖霊が臨まれた現場で、神の大きな御業を聞いて、信じた国々の人たち。

◇ペテロを支えていた確かなもの。『生ける望み』を同じ苦しみにある者たちに伝えた。

1、根拠のある確かな希望

- ①ペテロ自身が、そばで見続けたイエスキリストの御生涯
- ②十字架に対する恐怖、それを完全に飲み込んで、復活された力強い勝利。

あなたがたは世にあつては艱難があります。しかし勇敢でありなさい。

わたしはすでに世に勝ったのです。 ヨハネ 16 : 33

- ・イエスキリストの名の下で苦しみを受けている自分にとって、このキリストの十字架と復活の勝利とは何をもたらすのか、試練を通して繰り返し教え続けられた。
- ・困難が続くことがあっても、「主をほめたたえる」ことのできる確かな希望が与えられている。

2、「生ける望み」を持つ人の幸い

そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまな試練の中で、悲しまなければならないのですが、あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されつつなお朽ちて行く金よりも尊く、イエス・キリストの現れのときに称賛と光栄と栄誉になることがわかります。

【6、7節】

- ・試練とは当時、純金と偽の金を鑑定するときに使われた単語

「試練」・・・実力、決心、信仰の度を厳しく試すこと。またその時の苦難。

本当の力を見るのには、優しい環境ではわからない。

7節・試練・・・「δοκιμιον」 ドキミオン

試験済み、検証済み、最善のものという意味がある。

苦難によって鍛えられて、不純物が取り除かれた信仰。

【宣教師の話】

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。 ヘブル 12：2